個人投資家様向け会社説明会

◇事業の状況

◇2012年度第2四半期決算説明

2012年12月2日

鬼怒川ゴム工業株式会社

上場取引：東証一部

コード：5196

http://www.kinugawa-rubber.co.jp/

KINUGAWA

事業の状況

当社の概要

「お客さまの満足の追求」と「企業の社会的責任（CSR)への取組み」を通じて『社会貢献』を実現して参ります

社名の由来　～なぜ鬼怒川？

草創期の経営者は釣りが趣味で、ある年の秋、栃木・鬼怒川にヤマメ釣りに行ったところ、思いがけない大量の釣果に縁起のよさを感じ、会社をつくるとき鬼怒川と名付けたとのことです。

会社名	鬼怒川ゴム工業株式会社 Kinugawa Rubber Industrial Co.,Ltd.
本社所在地	千葉県千葉市稲毛区長沼町330番地
設立	1939年10月1日
資本金	56億5千4百万円　(2012年9月末現在)
売 上 高	【連結】 706億円　(2012年3月期)
上場市場	東京証券取引所市場1部　(証券コード:5196)
代表者	代表取締役　社長執行役員　関山　定男
従業員数	【連結】3,717名　(2012年9月末現在)
営業所	大阪営業所
関係会社	国内:11社　　海外:12社

KINUGAWA

当社の概要（特徴と強み）

ゴム・樹脂部品の専門メーカーとして国内外の自動車・自動車部品メーカー・建設機械に製品を提供

1994年	中国天津市に合弁会社「天津星光橡塑有限公司」設立
1996年	中国福州市に「福州福光橡塑有限公司」設立
1999年	東洋ゴム工業株式会社と資本･業務提携
2001年	タイに「キヌガワタイランド社」設立 工場部門分社化；キヌガワ郡山・キヌガワ大分・キヌガワ防振部品・キヌガワブレーキ部品
2006年	「鬼怒川橡塑（広州）有限公司」を設立
2007年	タイCPR社を子会社化
2010年	「キヌガワメキシコ」「鬼怒川（大連）模具開発有限公司」「鬼怒川（蕪湖）有限公司」を設立
2011年	和承R&A社（韓国）と業務提携 帝都ゴム株式会社を完全子会社化
2012年	「キヌガワインドネシア」を設立

主要得意先
＜国内自動車メーカー＞ 日産自動車㈱　日産車体㈱　富士重工業㈱　トヨタ自動車㈱　ダイハツ工業㈱　本田技研工業㈱　東洋ゴム工業㈱ 三菱自動車工業㈱　スズキ㈱　UDトラックス㈱　愛知機械工業㈱　日産工機㈱ ＜部品メーカー＞ ㈱ヨロズ　カルソニックカンセイ㈱　ボッシュ㈱　日立オートモティブシステムズ㈱　ユニプレス㈱　堀硝子㈱ カヤバ工業㈱ ＜建機メーカーその他＞ ㈱小松製作所　キャタピラージャパン㈱　三菱重工業㈱　日立建機㈱　ミネベア㈱ ＜海外自動車メーカー＞ （中国）　長安フォード　東南汽車工業　天津一汽豊田　広汽本田汽車　上海GM （米国）　トヨタモーターマニュファクチャリング　北米VW

KINUGAWA

鬼怒川ゴムグループ紹介～ネットワーク

海外拠点

天津星光樣塑
(中国・天津)

鬼怒川 (大連)
(中国・大連)

福州福光樣塑
(中国・福州)

鬼怒川樣塑 (蕪湖)
(中国・蕪湖)

中光樣膠工業
(台湾・桃園)

テプロ
(米国・テネシー)

CPR、キヌガワタイランド
(タイ・アユタヤ)

鬼怒川樣塑 (広州)
(中国・広州)

キヌガワインドネシア
(インドネシア・西ジャワ)

キヌガワメキシコ
(メキシコ・グアナファト)

国内拠点

キヌガワ郡山
(福島県郡山市)

キヌガワ防振部品
キヌガワブレーキ部品
(栃木県真岡市)

国内関係会社

- キヌガワ郡山
- キヌガワ防振部品
- キヌガワ大分
- キヌガワブレーキ部品

業務提携

- 東洋ゴム工業
- ハッチソン (フランス)
- 和承R＆A (韓国)

国内関係会社

- 佐藤ゴム化学工業　(千葉県成田市)
- ナリタ合成　(千葉県成田市)
- 帝都ゴム　(埼玉県入間市)
- ケイジー物流　(千葉県千葉市)
- キヌテック　(千葉県千葉市)
- エスイーシー化成　(山口県周南市)
- 八洲ゴム工業　(埼玉県越谷市)

キヌガワ大分
(大分県中津市)

鬼怒川ゴム本社
(千葉県千葉市)

KINUGAWA

鬼怒川ゴムグループ紹介～主力商品

①車体シール部品

・水や音、ホコリの侵入を防止する
・長年の技術力に支えられた高い競争力

モールディング
ウインドシールド

グラスラン

②防振部品

・高周波震動やノイズを低減する
・モノ造り力･高生産性に基く高い競争力

ストラット
マウント

エンジン
マウント

エキゾースト
マウント

ブッシュ

③精密エラストマー部品

・車の心臓部を支える
（ホース、ブレーキ部品等）
・品質に万全の信頼性が求められる
ブレーキ部品を中心とした高い技術力

ブレーキ
パーツ

フィラー
ホース

エアイン
レットホース

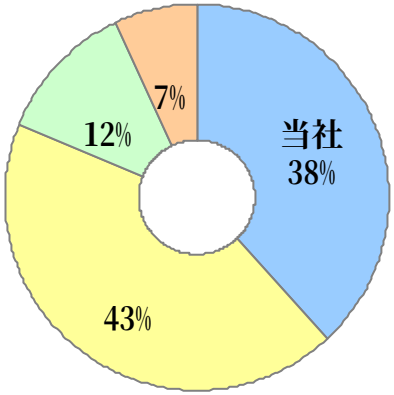
■ 業界をリードし、お客様から絶対の信頼を頂いている製品群

KINUGAWA

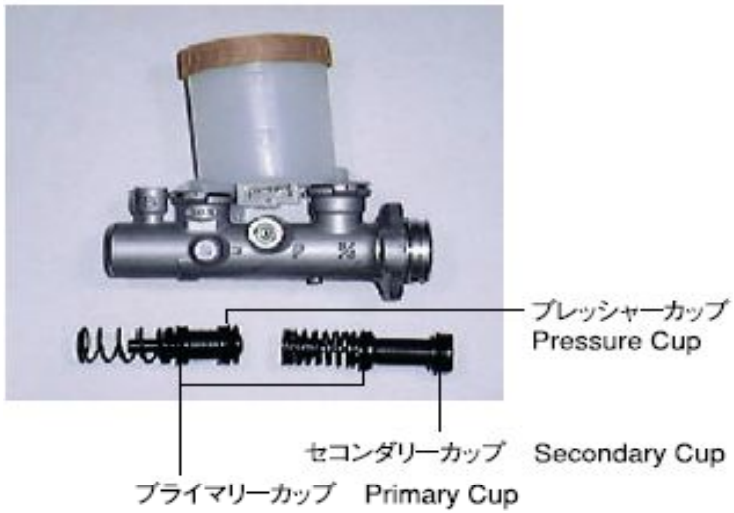
圧倒的なシェアを誇る商品群

＜ブレーキ部品（マスターシリンダーカップ）のシェア＞

※当社推定

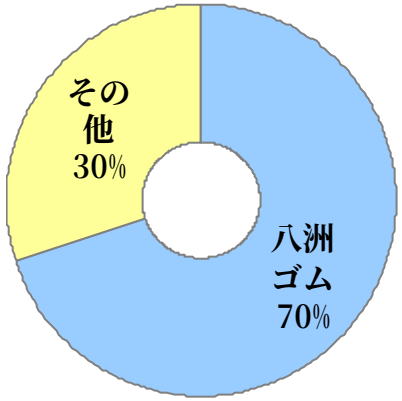


■マスターシリンダ　Master Cylinder

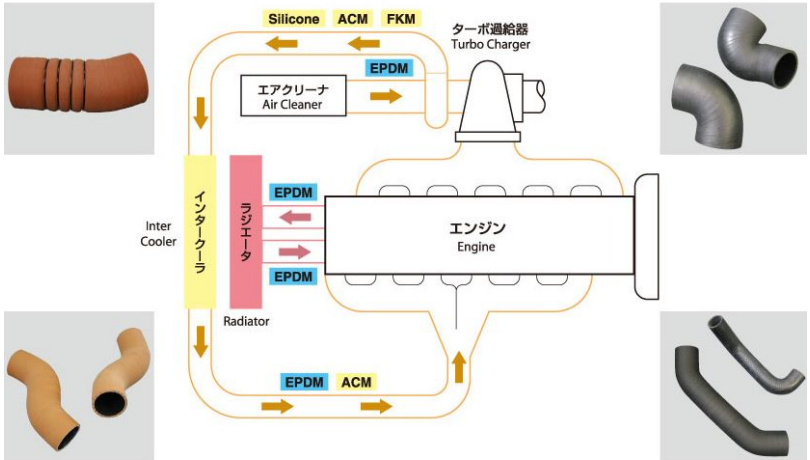


＜建設機械用吸排気系ホースのシェア＞

※当社推定



■ホース製品



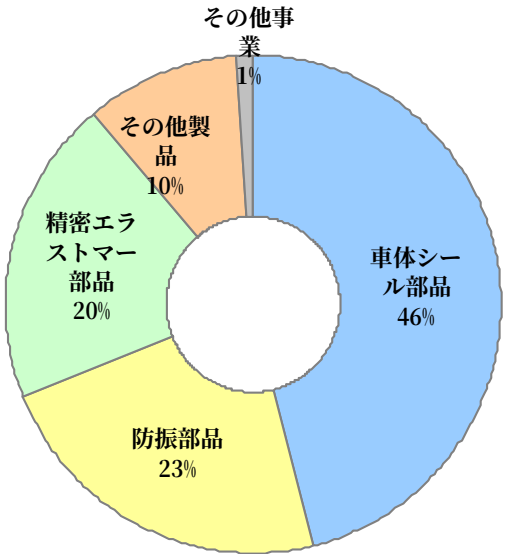
■ 品質に万全の信頼性が求められている高精度・高精密・高耐久性部品

KINUGAWA

製品別・顧客別・地域別売上高（2011年度）

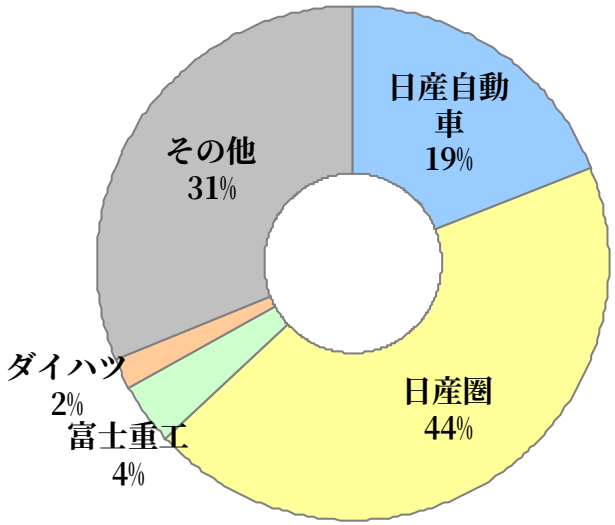
製品別売上高

■ 車体シール以外の比率を高めつつあります



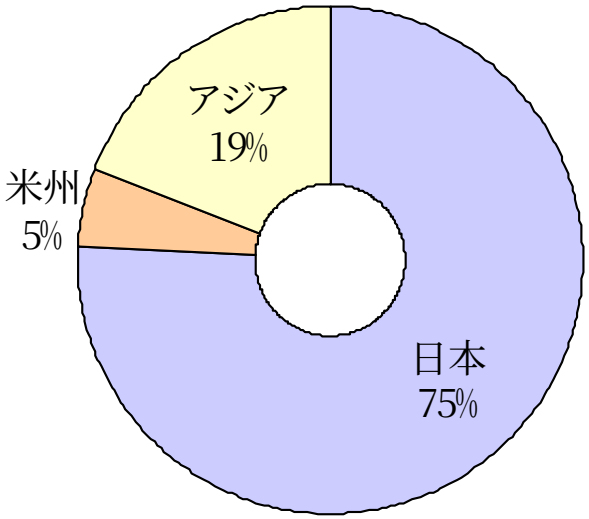
顧客別売上高

■ 日産自動車以外の比率を高めつつあります



地域別売上高

■ アジアの比率を高めつつあります



2011年度売上高　706億円

KINUGAWA

中期経営計画

2015年までの計画を策定、2011年に発表

2015年度目標（売上高・営業利益）

売　上　高；1,000億円以上
営業利益額；　120億円以上

KINUGAWA

中期経営目標　【スピード・変革・チャレンジ】

お客様の信頼を高め「顧客満足度向上を極めます」

経営方針

経営基盤の強化

「着実且つ持続的に成長するために
モノ造りと組織能力をグローバルに再強化する」

➢3つの構造改革 プラス１

1. 短期収益の確保
2. 売上を拡大　『持続的な成長』
3. 業務改革による収益体質の強化

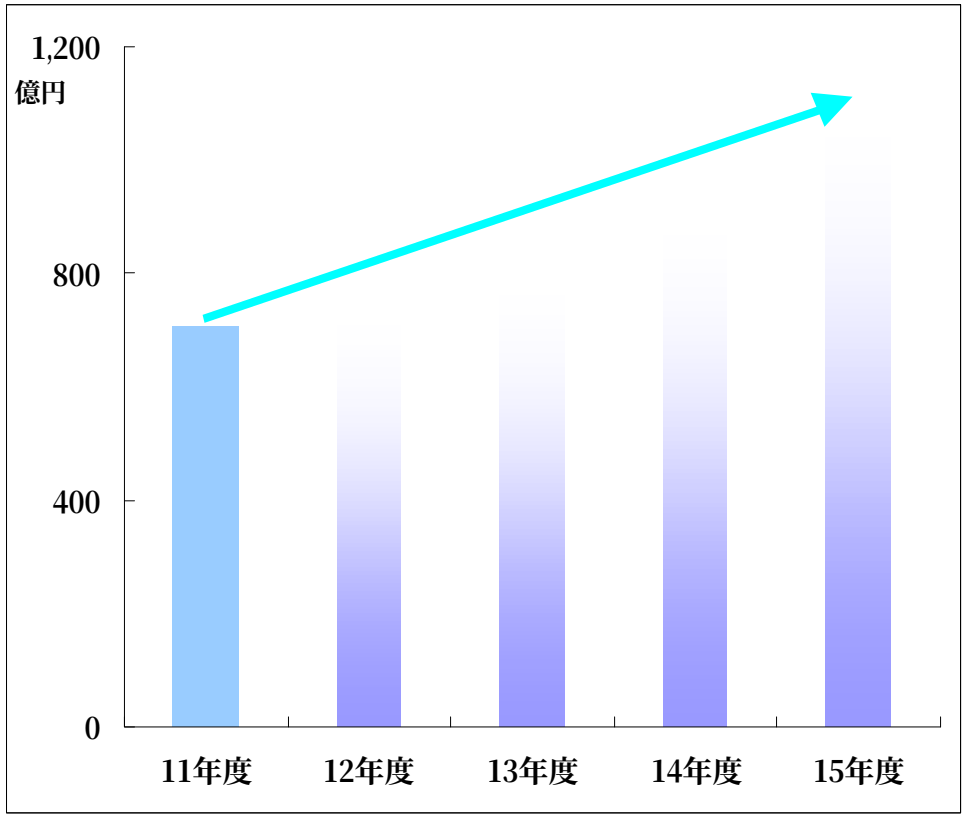
4. グローバルに展開

KINUGAWA

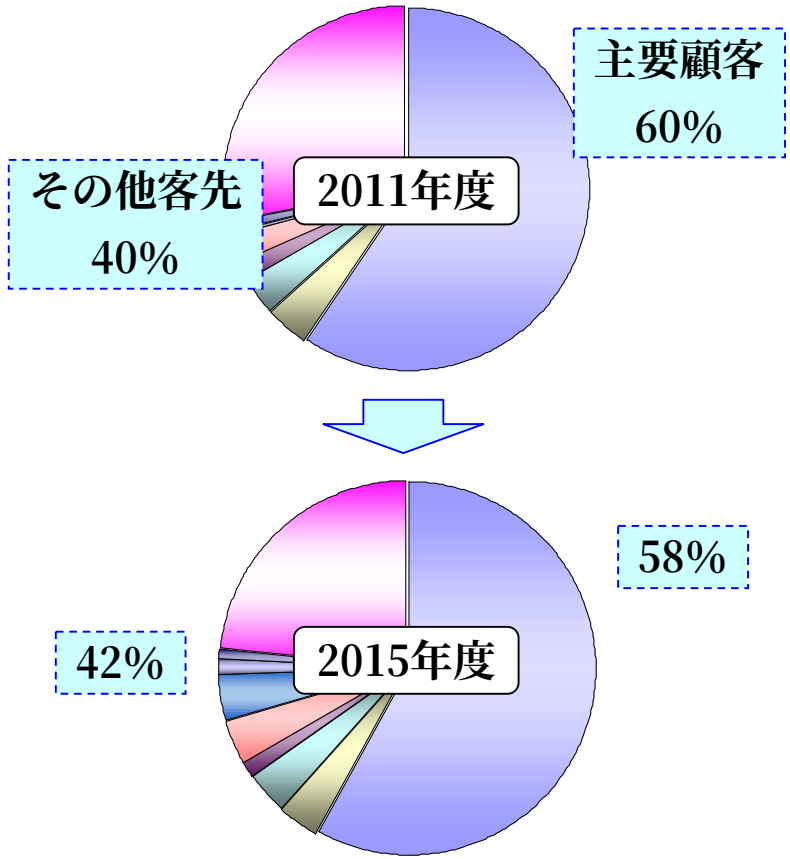
年度別売上目標（2012～2015年度）

■ 新興国を中心としたグローバルでの需要拡大を拡販のチャンスと捉え、海外での売上を拡大することで、2015年度1,000億円を目指す

今後の売上計画



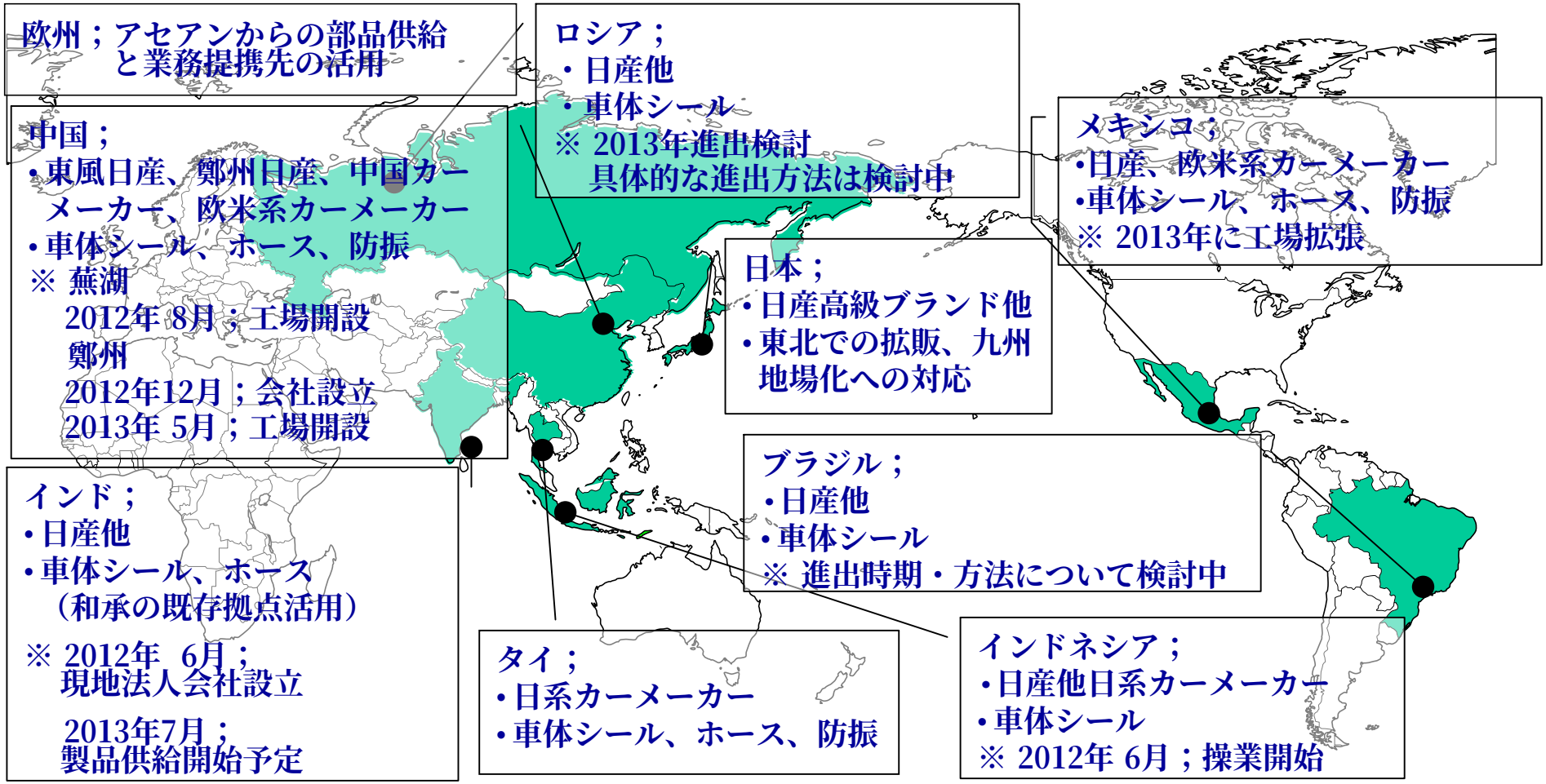
客先別売上高比率（計画）



KINUGAWA

グローバル展開

- ２つのシナリオ（複数の顧客、車体シール部品プラス他の製品群、高付加価値製品と廉価品）で海外進出に伴うリスクを回避する
- 中国、タイ、メキシコは重要拠点に位置付け、全商品群を販売する



KINUGAWA

2012年度第2四半期決算説明

1. 2012年度第2四半期決算の状況

2. 2012年度通期業績予想

3. 2012年度第2四半期の主な取組み

2012年度第2四半期決算概要

■ 対前年同期比で増収、営業利益・経常利益は増益を達成

（単位：億円/未満四捨五入）

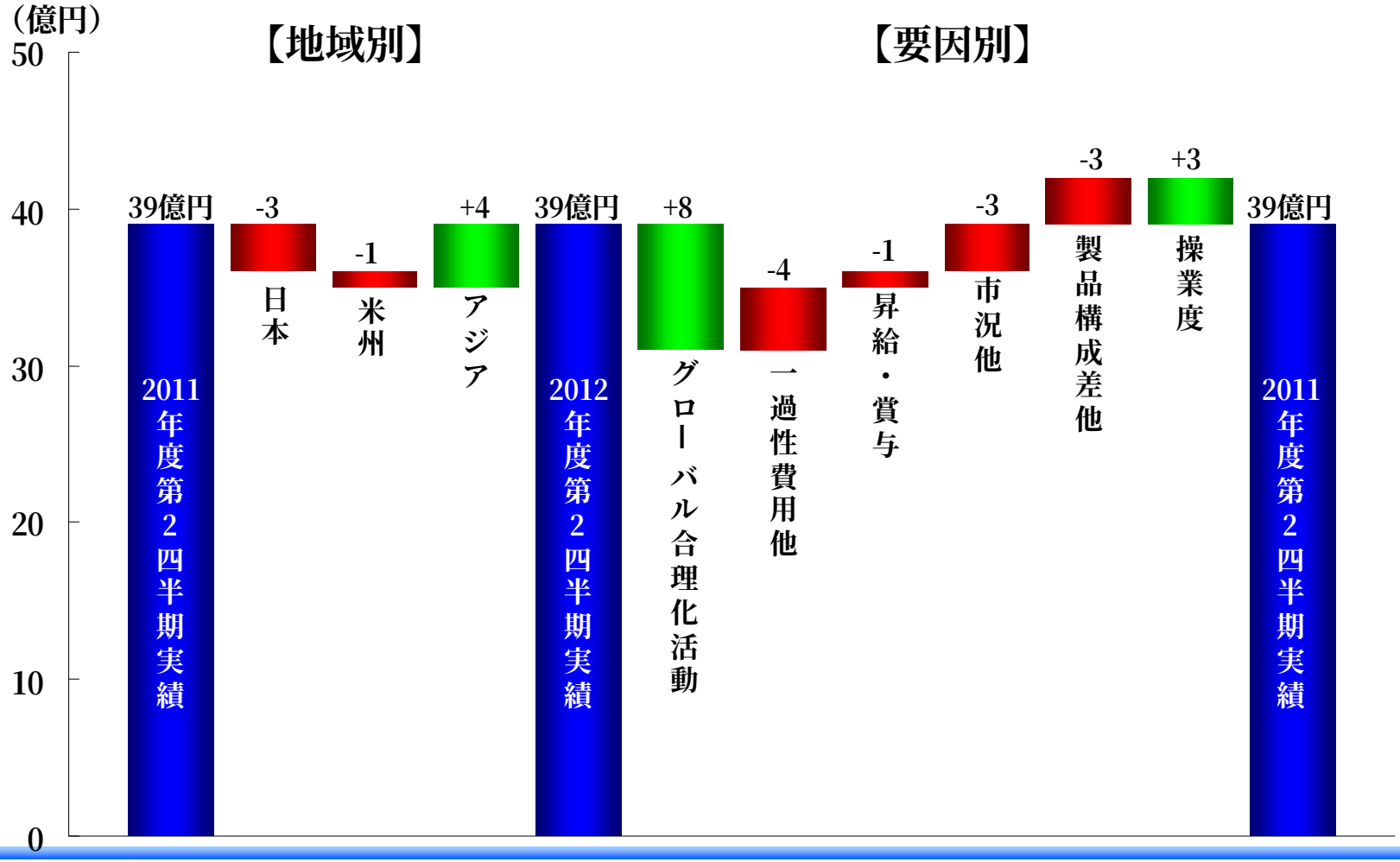
	2011年度 第2四半期	2012年度 第2四半期	
売 上 高	337.2	345.0	(102%)
営業利益	39.2	39.3	(100%)
率	11.6%	11.4%	
経常利益	39.2	39.4	(101%)
率	11.6%	11.4%	
当期利益	24.8	22.3	(90%)
総 資 産	467.1	478.7	(102%)
自己資本	210.2	229.5	(109%)
率	45.0%	47.9%	
借入金残	61.5	64.0	
DEレシオ	0.3	0.3	

前期BS項目は3月末。（ ）内は前期との比率。

KINUGAWA

営業利益増加要因（地域別・要因別）

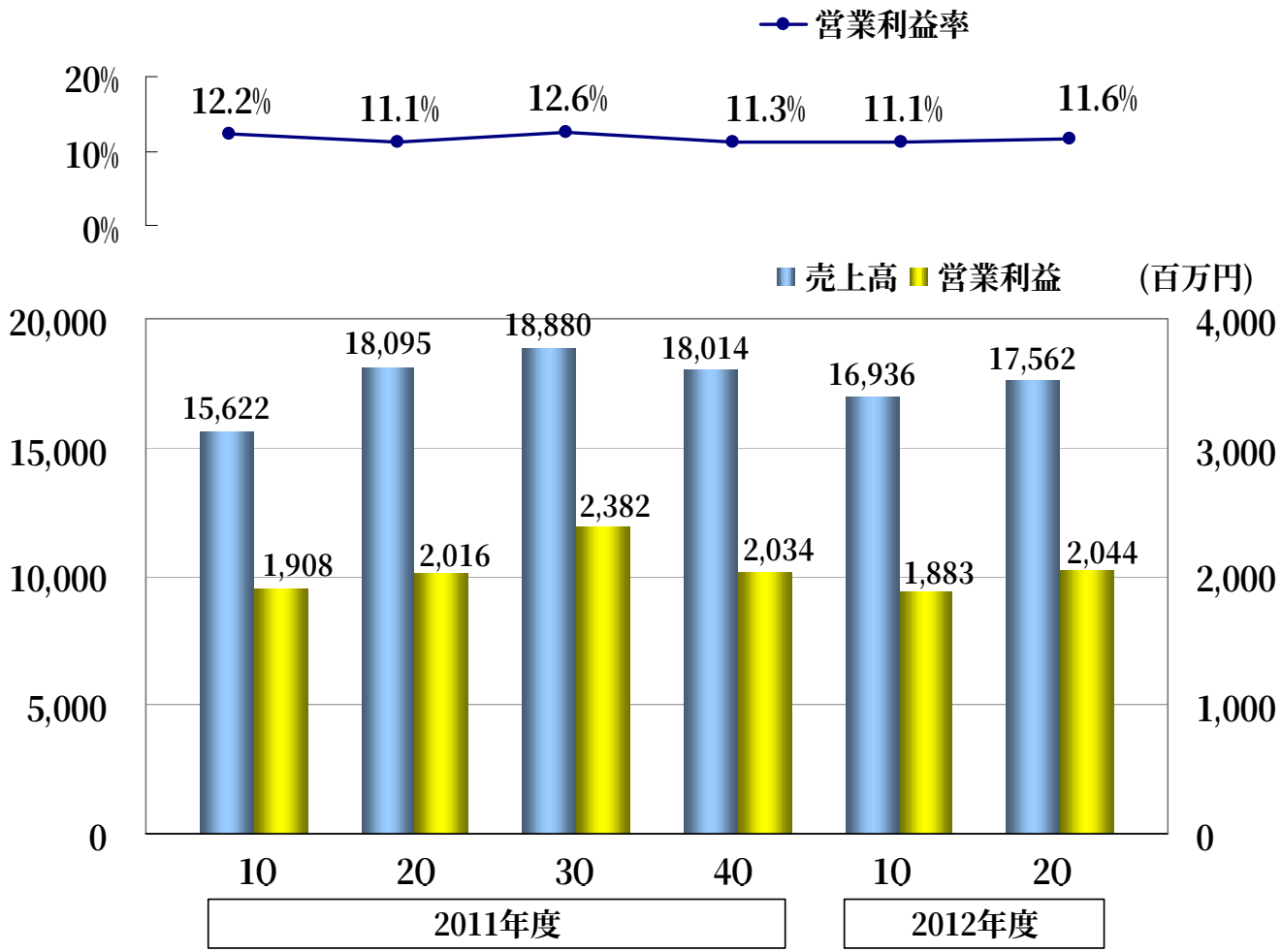
■ 新車立上げ費用等によるコスト増をモノ造り改善・調達コスト削減によりカバーし、前年同期並みの利益を確保



KINUGAWA

四半期毎 売上高・営業利益推移（2011～2012年度）

■ 2010年度以降、2桁の売上高営業利益率を維持・継続中

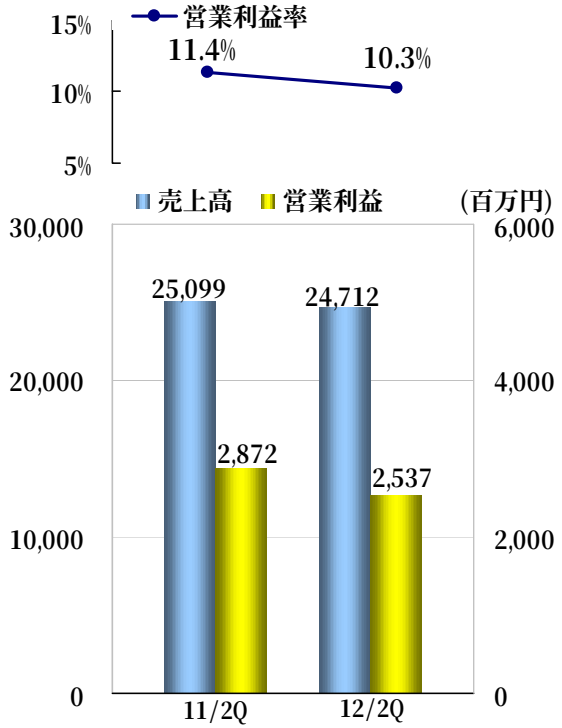


KINUGAWA

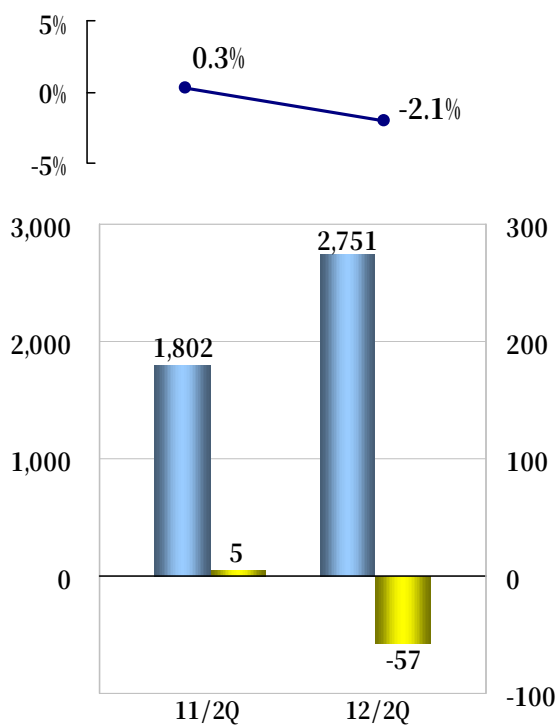
所在地別の状況

- 日本；モノ造り改善・調達コスト削減活動を進めたものの、建機他の輸出向け部品の減少などにより減収減益となった
- 米州；新車立ち上げによるコスト増により減益となった
- アジア；堅調な売上の増加とモノ造り改善の展開や調達コスト削減効果などにより、増収増益を達成した

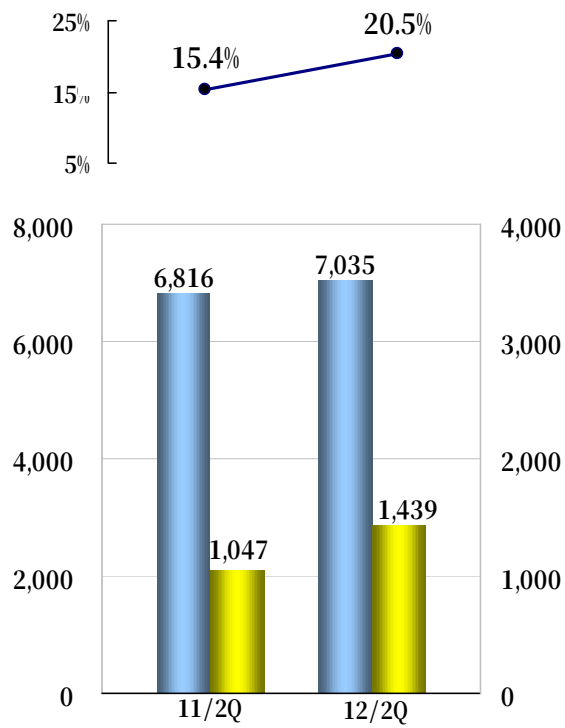
日本



米州



アジア

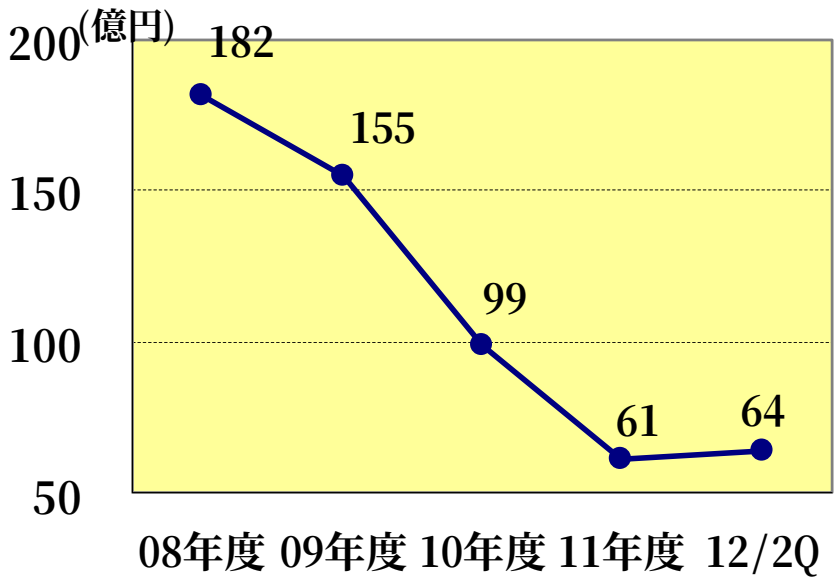


KINUGAWA

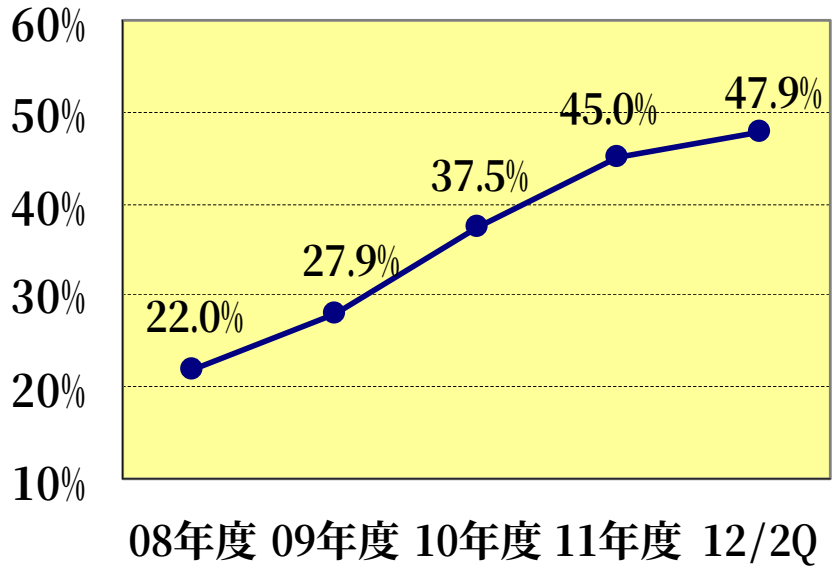
主要経営指標の達成状況

■ グループを挙げた財務体質の改善活動を強力に推進し、良好且つ安定した経営指標を実現

借入金残高



自己資本比率



KINUGAWA

1. 2012年度第2四半期決算の状況

2. 2012年度通期業績予想

3. 2012年度第2四半期主な取組み

連結業績予想

■ 得意先の中国での自動車生産台数や日本からの輸出の減少による売上高減少に伴い通期業績を下方修正、しかし2桁の営業・経常利益率は確保出来る見込み

億円

	5月12日公表値		今回予想			
					差異	
売上高	710		670		-40	(-5.6%) ＊
営業利益	86	12.1%	75	11.2%	-11	(-12.8%) -0.9%
経常利益	87	12.3%	75	11.2%	-12	(-13.8%) -1.1%
当期純利益	54	7.6%	42	6.3%	-12	(-22.2%) -1.3%

＊ 差異の（）内は金額の増減率

KINUGAWA

連結業績予想修正の主な要因

1. 客先生産台数の減少
   - グローバル生産台数が約5%減少（中国の反日運動影響を除き）
   - 建機メーカーの減産
2. 米州における新車立上げによるコスト増加
   - 新車部品の生産準備遅れによるロスの増加
   - リカバリープランの実行により来期は改善の見通し
3. 中国の反日運動に伴う日本車販売の減少
   - 9月後半以降、客先生産台数が大幅に低下したため、中国拠点での生産調整を実施
   - 減産期間の継続によっては、負荷の高い拠点の応援生産等を実施し、操業度を確保することも検討

KINUGAWA

足下の状況

1. 中国の状況

- 昨年の低燃費車の補助金制度変更による反動に加え、尖閣諸島問題に関連した反日デモや日本車の不買運動の影響により、日本車の販売台数が急減している
- 主要客先の東風日産の生産は、9月後半以降大幅に減少しているが、若干持ち直しの気配
- 欧米系や民族系のカーメーカーについては大きな減少にはなっていない
- 生産調整に伴う収益への影響を最小限にすべく、きめ細かい生産体制の見直しで対応しているほか、原材料調達の現地化・汎用化等の合理化活動の加速化に務めている

足下の状況

2. 米州の状況

- 新車立上げと米国からの生産部品の移管がほぼ同時期に重なり、費用が増加
- ロスの極小化を図るため、本社支援により活動中
- 現在は収束に向けた恒久対策を実施しており、来期にはロスを解消できる見通し

1. 2012年度第2四半期決算の状況

2. 2012年度通期業績予想

3. 2012年度第2四半期の主な取組み

KINUGAWA

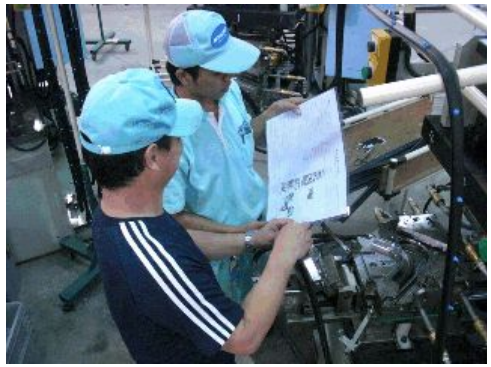
新規拠点の立ち上げ

■ 中国（鬼怒川蕪湖　きぬがわウーフー）･･･ 2012年8月操業開始

安徽省蕪湖市に中国４番目の部品製造拠点として立上げ。中国メーカー（奇瑞汽車）や鄭州日産向けに車体シール部品、防振部品を供給する。2015年度には約25億円の売上げを目指す。

新規拠点の立ち上げ

■ インドネシア（キヌガワインドネシア）･･･ 2012年6月操業開始

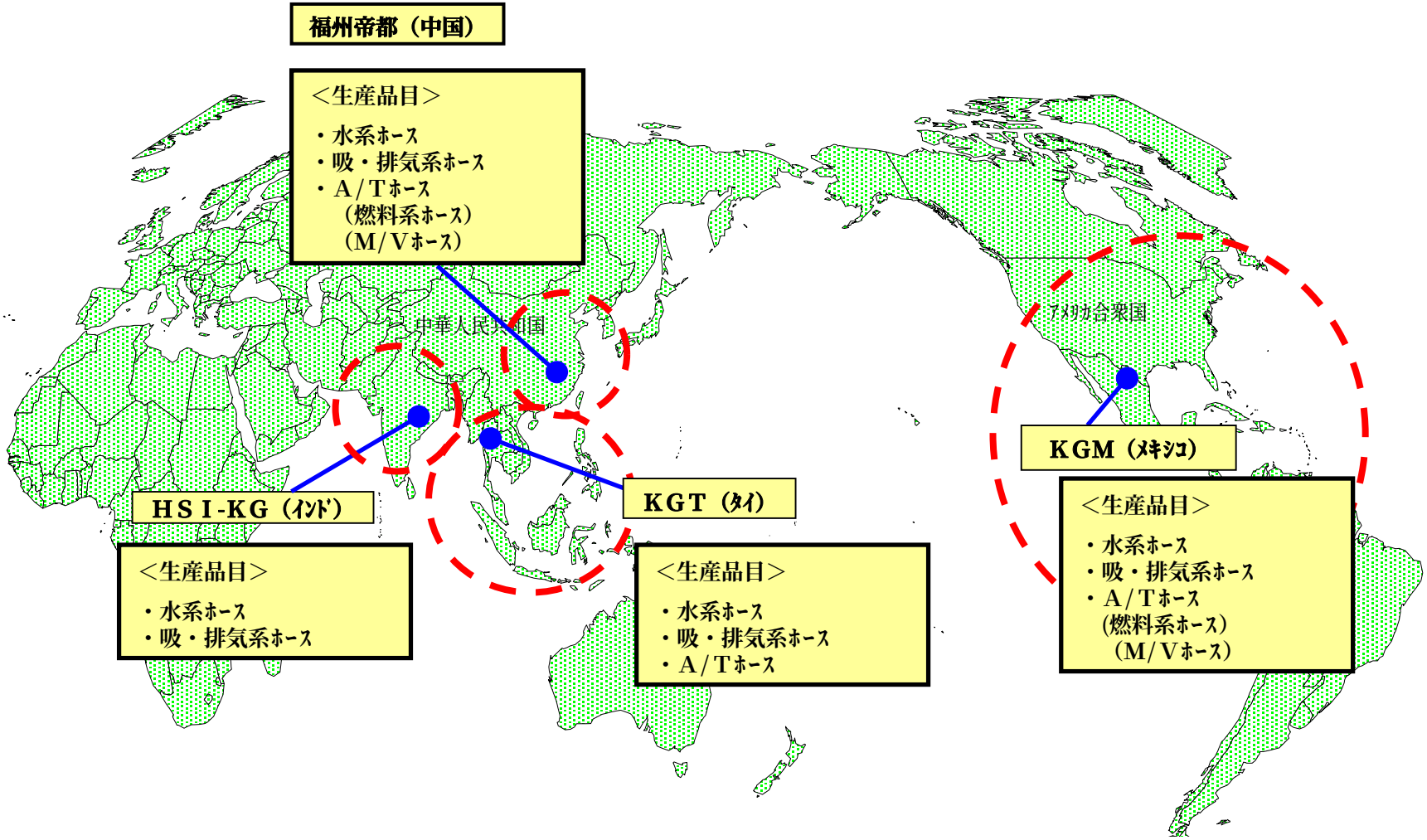


作業研修

インドネシア西ジャワ州に設立。日産・ダイハツ向けに車体シール部品を供給し、現地で売れ筋の車両に適した設計仕様の部品を提案し販売を広げる。2015年度には約6億円の売上げを目指す。

ホース部品のグローバル展開

■ 日本国内中心に生産していたホース部品をグローバルで展開し、お客様の『現地化』と『コスト要請』に対応する



KINUGAWA

ゴムから樹脂への転換

■ 製品の樹脂化促進により軽量化・リサイクル化を実現

■環境への対応 ⇨

・軽量化

・ゴムとTPVの比重の差で各部品毎に15%から20%軽量化が可能

・リサイクル

・熱可塑性エラストマーであり、リサイクル可能率は100%

■コストへの貢献 ⇨

・成形時間

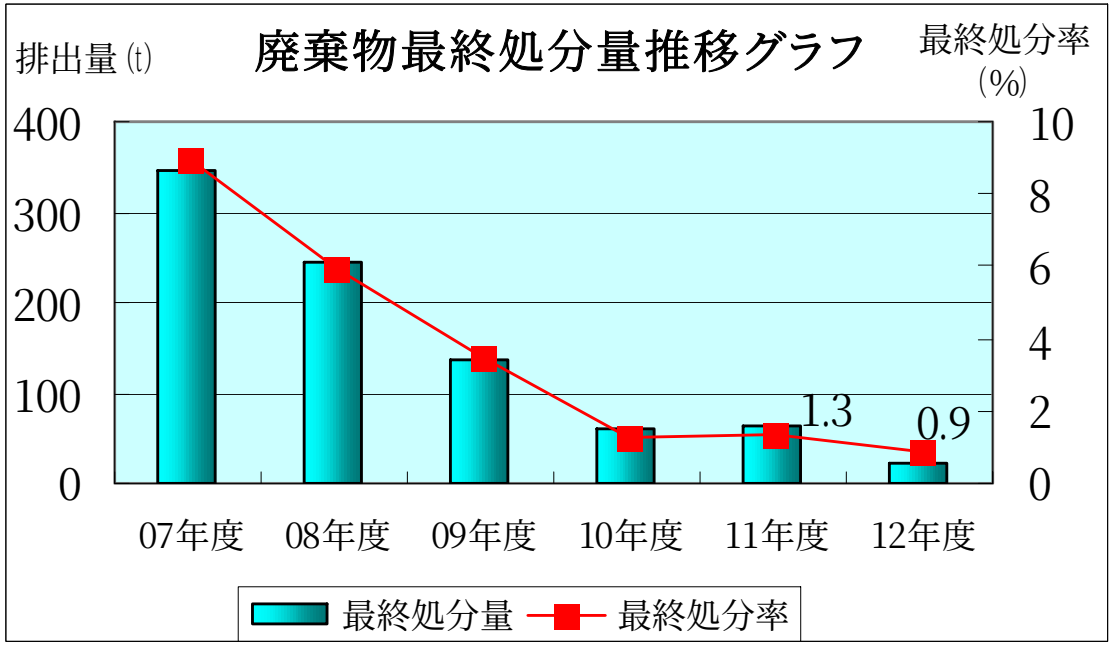
・加硫工程が不要

・加工時間が短い

KINUGAWA

環境への取組み～廃棄物最終処分量の低減

■ 2011年度の産業廃棄物最終処分量は2007年度比82%削減し、2012年度も昨年同様の水準を維持



・ゴムから樹脂化への転換によりリサイクルが容易になり、リサイクル率は98%と前年同様の高水準で推移

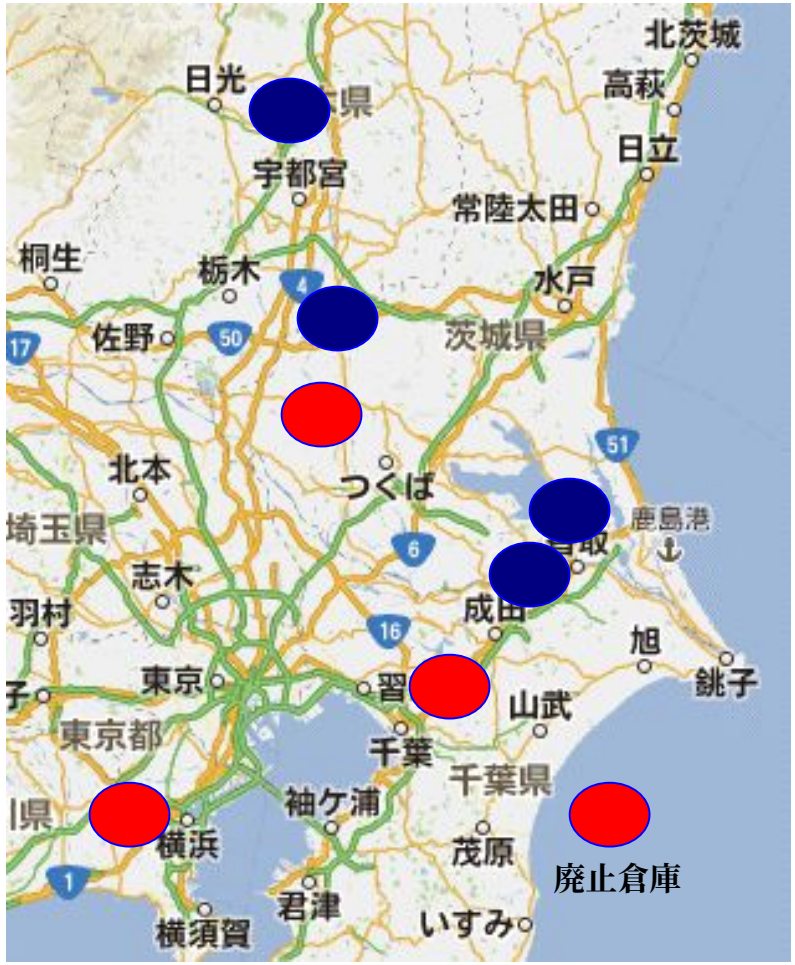
・ゴム廃棄物についても廃棄物から熱エネルギーを生み出し再資源化する方法や、固形化燃料化などにより最終処分削減を推進

KINUGAWA

物流改善事例（関東圏倉庫削減　７箇所⇒４ヶ所に）

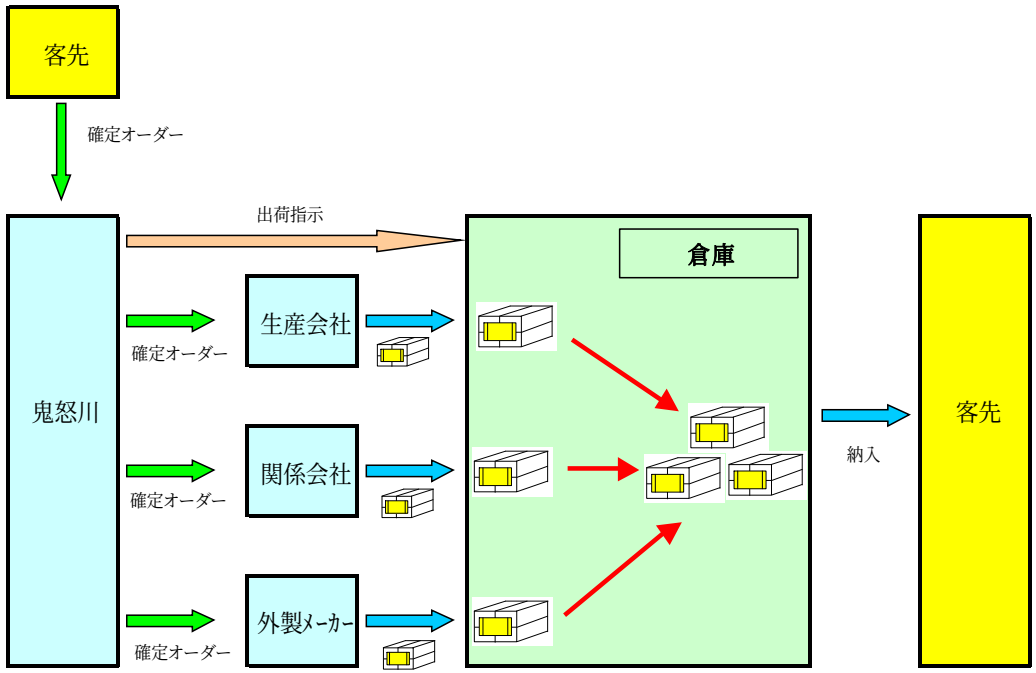
■ 在庫削減や直納化により倉庫不要システムへ

関東圏　物流倉庫　経緯



①神奈川地区　直納化により倉庫廃止
②北関東地区　倉庫統合
③千葉地区　　在庫削減・直納化で倉庫廃止

改善前　7倉庫
改善後　4倉庫



KINUGAWA

モノ造り改善事例

■セル生産方式（１人屋台ライン）による生産性向上

1人の従業員が複数の工程を受け持ち、中間在庫を削減

出展 日経ビジネスより抜粋

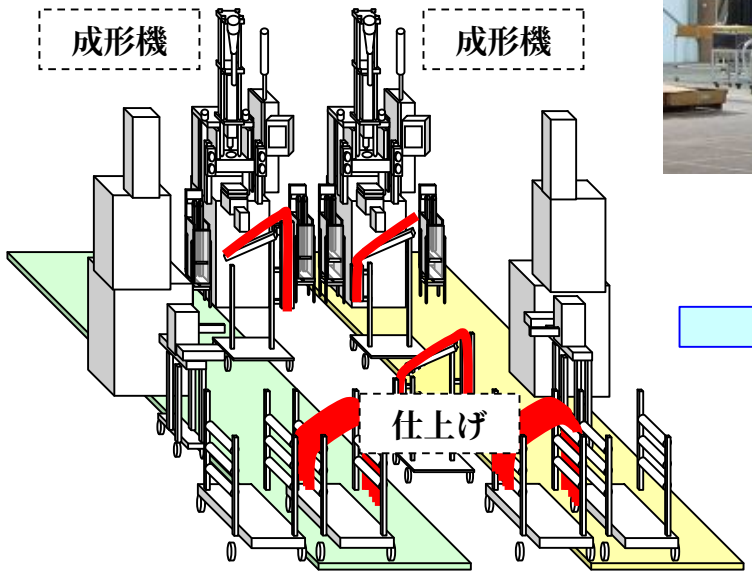
KINUGAWA

拠点へのライン設置事例

■ モデルラインによる早期品質の造り込み
・現地作業者をモデルラインで習熟
・生産ラインをそのままで現地に転写

※ キヌガワ大分 ⇒ キヌガワインドネシアへ展開

工程改善を組み込んだ生産
レイアウトの設定～展開



設備近接化によるセット生産
（1人2台持ち、仕上げ1人生産）

KINUGAWA

株主還元

当社は株主還元の指標として、DOE（株主資本配当率(*)）2～3%を目指します。今後も会社業績に応じた適切な株主還元を継続してまいります。

(*)=配当総額÷株主資本

	09年度	10年度	11年度	12年度（見通し）
当期純利益 （百万円）	2,977	4,467	5,300	4,200
１株当たり当期純利益（円）	44.35	66.56	78.83	62.47
１株当たり配当金 （円）	4.00	5.00	6.00	8.00

2012年中間配当の実施
中間；4円、期末；4円

KINUGAWA

本書には、当社および/または当社グループに関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは当社が現在入手している情報に基づく、本書作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しております。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。実際の業績は、今後様々な要因により業績予想と異なる結果となる可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の有価証券報告書、短信等開示書類、プレスリリース等をご参照ください。

本書は、情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としているものではありません。

本書に記載されている当社ないしは当社グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものです。情報の正確性・適切性等について、当社は何らの検証を行っておらず、またこれを保証するものではありません。

ご照会等は、下記までお願いいたします。

■鬼怒川ゴム工業株式会社　経営企画グループ

電話：043-259-3111（代表）

E-mail：kinugawa-ir@kinugawa-rubber.co.jp

■ホームページのご案内

URL：http://www.kinugawa-rubber.co.jp/index.html

《IR情報》http://www.kinugawa-rubber.co.jp/investor/

KINUGAWA

＜メモ＞